

1957年: ジェシー・ボンド

父の偉大さを見た

第二次世界大戦中、私の父、レジ・ボンドは、ビルマでの敵陣の背後や、当時インドとアフガニスタンの国境だったワジリスタンでの残忍な戦争の中で、過酷な任務に就いていました。大学を出たばかりの繊細な若者には過酷な扱いであり、彼はその代償を支払いました。その後の彼の激情的な気性は、おそらく今でいう心的外傷後ストレス障害の症状だったのでしょうか。

私の母のジェシーはこれに耐えるのが大変でした。エジンバラで医師としての教育を受けた彼女は、徴兵されてインドに派遣されました。そこで父と出会い、戦争末期に結婚しました。1957年まで、4人の子供の世話と夫の度重なる爆発に苦勞していた彼女は、夫との別れを真剣に考えていました。その年、二人はコーを訪れました。

会議が本格化し、二人はそのすべてに参加しましたが、母はまだ絶望と闘っていました。ある朝、母は部屋で静かな時間を持っていました。父はバルコニーに出てレマン湖を眺めていました。近くの部屋からは、イスラム教徒が祈りを捧げる声が聞こえてきました。おそらくこの祈りの声が彼女に、今のパキスタンでの婚約と結婚の幸せな時間を思い出させたのでしょうか。

理由が何であれ、父が部屋に戻ってくると、母は突然、父を新しい視点で見るようになったと私に言いました。母が言うには、それまでは父の欠点ばかりに気を取られていたが、『父の偉大さを目の当たりにして、私は決して父から離れないと知ったのです』。

彼女は父の爆発で落ち込まないようにになりました。そして、父が新たな心の平穏を発見したことで、爆発も少なくなりました。我が家には以前より大きな調和ができました。このことは7歳の私に深い感銘を与えました。

それからの数年間、父は英国陸軍の将校として、ストレスの多い危険な任務に就きました。しかし、父はそれに違った方法で対処しました。彼のキリスト教信仰は本物であり、父から母への、そして母から父への愛は揺るぎないものでした。若い私がMRAの活動に身を捧げる決心をしたのは、おそらくこのことが大きく影響しています。精神の傷は癒すことができるということを、私は身をもって知りました。

私は仕事を通じて、紛争中の地域社会を和解させ、社会正義を前進させる数々のイニシアティブに参加してきました。どれも簡単にはいきませんでした。さまざまな挫折や挑戦に直面し、時にはトラウマになるような出来事もありました。

両親の対応を見てこなかったら、私に対処できたかどうかは疑わしいものです。両親は結婚生活の間、4大陸10カ国で働きました。苦難、危険、病気に直面しながらも、生きる意欲と感謝の精神を失わず、文化の違いを超えて温かい友情を築きました。

コーがその役割を果たしたのです。私はコーに永遠に感謝し続けるでしょう。

ジョン・ボンド

決して彼から離れることはないと確信しました。



Jessie Bond, 1945



Reg Bond, 1945



Jessie and Reg Bond, 1984



The Bond family with German and British friends, Berlin 1961